コクヨ

東京ショールーム リニューアル

「従業員体験」に焦点当てる

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、既報の通り、東京・港区のコクヨ東京ショールームを11月25日にリニューアルオープンした。

11月17日にコクヨ東京品川オフィス「THE CAMPUS」で開催されたメディア内覧会では、冒頭、執行役員グローバルワークプレス事業本部・矢田章本部長が「働く」を取り巻く変化について「働く環境は非常に大きく変化している。ハイブリッドワークやフレキシブルワークの普及により、オフィスの役割そのものが問われるようになった。また、会社と従業員、従業員同士の関係性も非常に希薄化している」と説明。今回のリニューアルコンセプト「はたらくみんなで、カルチャーを。」について「仕事に対する価値観や働き方の多様化が浸透した昨今では企業カルチャーを明確にし、組織と個人が互いに作用しあう環境をつくることが必要不可欠。企業らしさを引き出し、それを起点に個人やチームが自律的に働ける環境づくりを提案していく。このコンセプトはお客様と共に企業のカルチャーを育み、成長を支えていきたい、とする私たちの姿勢を表している。今回のリニューアルでは、この考え方を具体的に体感していただける商品やサービスを紹介している。今後はオフィスの空間にとどまらず、自社ビル一棟まるごと、リノベーション、既存ビルの再生・収益化、チームの力を引き出す組織成長ソリューション『TEAMUS（チームアス）』の提供など、働く環境づくりを多面的に捉えて支援していく。ショールームではこうしたソリューション提案を実際に見ていただき、皆様の組織やチームにどのように活かせるかを具体的にイメージできる場としたい」と今後の展開も含めて挨拶。

説明する矢田章本部長

リニューアルされたショールーム

フィンランド・フラメリーの高品質な防音ブース

続いて、同事業本部・亀井典子ものづくり戦略本部長がカルチャーを醸成する新提案について「オフィス家具業界や空間構築業界は活況を呈している。その要因は人的資本経営に対する注目度の高さ。人的資本経営を支える両輪として、働き方や働く場の重要性が再認識されるようになった。コクヨは働き方と働く場が連動したアプローチとして、『企業カルチャーの醸成』を促す提案を行ってきた。企業カルチャーを形づくる表層部分には目に見えること（オフィス空間、従業員の服装、制度と運用、ツールなど）、中層には言語化された理念（パーパス、ビジョン、ミッション、行動指針など明文化された価値観）、深層には当たり前とされていること（社員の思考や行動のパターンなどその組織にある前提）があり、企業カルチャーをつくるうえで、これらをトータルでデザインしていくことが重要になる。今回のリニューアルは、企業カルチャーの変革の起点となる『従業員体験』に焦点を当て、『はたらくみんなで、カルチャーを。』をコンセプトに据えた」と説明した。

リニューアルされたコクヨ東京ショールームでは、「はたらくみんなで、カルチャーを。」をコンセプトに、チームの強さも個の強さも引き出すワークプレイスを提案。個人とチームの働きがいを高める新商品を中心に様々なシーンを展開しながら、顧客がカルチャーの設計図を描くための新たな視点を提案している。

自由に　いつかは　アルバム整理
12月5日は
「アルバムの日」
デジタルカメラやスマホで
撮りためた思い出の写真を
アルバムにしましょう!!
ALBUM'S DAY

人から人へ心を伝える
ハート紙製品
ハート株式会社

つながるオフィス提案

○…LIONフェア…○

オフィスのICT化に対応

株式会社ライオン事務器（髙橋俊泰社長、東京都）は、12月3～5日に東京・本社ビル内ショールーム「WORK PALETTE（ワークパレット）」、12月10～12日に大阪・中央区の大阪プレゼンテーションルーム「soLid LABO（ソリッドラボ）」で、「2026 LION FAIR」を開催した。

今回は「more LINK～もっとつながる～」をテーマに、「オフィス家具＋ICT商材」で実現できる新しい働き方を提案。

東京会場は①ふらっとLINK②チームでLINK③こもってLINK④いっしょにLINKの4つのつながる展示エリアで構成し、空間デザインや家具と連携したICTソリューションを提案。

ワンフロア・オフィスが注目を集める中、プライバシー確保ができる個室ブース、フレキシブルレイアウトに活用できる可変性のある家具、コミュニケーションを育む空間デザインなど、顧客がイメージしやすいようにさまざまなシーンを展示した。

2階会場では、2027年末に製造・輸出入が禁止なる蛍光灯に置き換わる「LED」照明器具、癒しぬいぐるみやスターバックスコーヒーなどの幅広い商材を扱うオフィス用品の通販サービス「ナビリオン」を中心に紹介。

㊤東京会場㊦大阪会場でのオフィスチェア体験

東京のショールームは、『大阪の「ソリッドラボ」に導入された大型LEDビジョンが導入され』、臨場感の中で提案されたオフィスレイアウトやデザインを確認することができる。

オフィス家具の新製品は、オープンスペースのシンボルとしてワーカーを惹きつける、タワー型テーブル「コミュニケーションテーブル＜Fremia（フレミア）＞」、天井高が低い空間にも設置しやすい個室ブース「Delica Booth＜（デリカブース）type S＞」の機種追加、アイテムの組み合わせやレイアウトによってフレキシブルな空間づくりをサポートするフレキシブルファニチュア「＜Minera（ミネラ）＞」シリーズの六角形テーブル＆ディスプレイスタンドのラインアップ追加、壁掛け施工せずに、壁寄せですっきりと省スペース設置できる「壁寄せディスプレイスタンド」、デスク、ワークテーブル、ミーティング用テーブルの異なる3アイテムをシャープな共通デザインでシリーズ化した「スタンダードデスク＆テーブル＜Branato（ブラナート）＞」。

文具の新製品は、80％再生材シートを使用した環境負荷の少ない「PPカラーホルダー」（5色展開）、スペパ（＝スペースパフォーマンス）に優れたコンパクトな文具シリーズ「＜pimmy（ピミー）＞」の小型ステープラ＆小型パンチ、A4サイズの丈夫な貼り表紙の紙製バインダーと、トレーディングカードなどの収納に適したカード用ポケット「バインダー＆カード用ポケット」、子どもの作品を収納しながら飾れるフレーム型のホルダー「＜sumafy（スマフィ）＞フレームホルダー」。「環境配慮」「省スペースを有効活用」「見せる収納」など、ニーズをとらえた新商品が登場。

発売時期は「スマフィフレームホルダー」が3月、「バインダー＆カード用ポケット」が2月予定。その他の商品は1月発売。

グリーンベル

新アイテム発表

体験型の展示で訴求

株式会社グリーンベル（石田逸人社長、大阪市）は、11月19～21日の大阪本社を皮切りに、11月12～14日に東京HQ、12月4、5日に福岡店、12月11、12日に中部店の4会場で、「2025新製品発表会」を開催。テーマの「カタログでは伝えきれない〝本当〟を体験でお届けします」を、体験型の展示で紹介し、新商品やモノづくりの姿勢をアピールした。

大阪会場では、同社初となる「アンダーヘアーカッター」の説明動画とこだわりの30度ガイド体験、ヒット商品「驚きの毛抜き」の工場での検品作業の疑似体験、社長や従業員のリアルな声を集めた「暮らしのうれしい発見展」、手に取って試せる「商品の比較」やクイズ形式で商品を知る「Q&A豆知識」のコーナーなどの体験型展示を中心に、グッドデザイン賞受賞商品コーナー、基幹商品の「匠の技」シリーズ、フットケアの新ブランド「ANyo（あんよ）」、キッチンツール「調理のミカタ」シリーズ、ペットケア用品、ノベルティ商材など多彩な商品ラインアップを紹介。

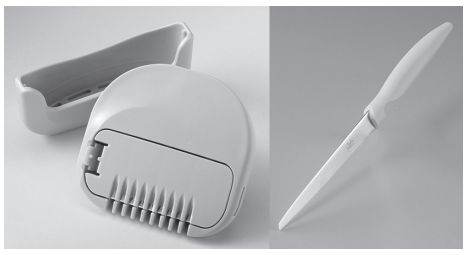
今回発表の新製品は、肌に当ててなぞるだけで毛が梳きやすく、ふわふわになる30度ガイド付きの「アンダーヘアーカッター」、キッチンアイテムの万能ナイフ「調理のミカタ　サクッとナイフ」。

「アンダーヘアーカッター30（ミオ）」は、肌に当てると刃の角度が30度になる、同社こだわりの「30度ガイド」設計により、梳いた毛はふわふわになり、チクチク感を緩和する。刃が直接肌に触れず、梳く角度が簡単に維持できるので、初めて使う人も安心して使用できる。商品化にあたってはマーケティング、企画、営業が参加して、意見を出し合い、検証を重ねた。ジェンダーレス対応の商品としてシンプルでスタイリッシュなデザインと、インテリアに馴染むグレイッシュカラー（スカイグレー）で展開。保管に便利なケース付き。価格（税別）は1000円。

「調理のミカタ　サクットナイフ」は、先端のみ直刃にすることで、ギザ刃の食いつきと、直刃のスパットした抜けの良さを融合した万能ナイフ。パンをはじめ、形が崩れやすいスイーツも綺麗に切れることができる。野菜や果物は繊維をつぶさず、本来のおいしさをたもったままカットする。価格（税別）は1600円。

このほか、フットケアの新規ブランド「ANyo（あんよ）」の展開商品、ノベルティやギフトとして好評の「匠の技グルーミングキット」の新モデルを紹介した。

体験型の展示でアピール


㊤アンダーヘアーカッターと㊨サクットナイフ

ベトナムの文具大手を子会社化

○…コクヨ

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、12月4日開催の取締役会で、ベトナムの最大手文具製造・販売業者として強固な事業基盤を有するTLG社グループのTLG社の株式を取得し子会社化することを決議した。

同社はTLG社が築き上げてきた販売網を基盤として、成長著しいASEAN市場を日本、中国、インドに次ぐ第4の柱として確立し、事業展開を加速させる。

TLG社は、1981年にボールペン製造事業を開始し、筆記具を中心とした文具の製造・販売を専門としている。同社は、ベトナム筆記具市場において高いシェアを有し、高い商品開発力と生産及び調達能力を持つとともに、ベトナム国内のみならずASEAN地域において強固な販売網を有している。

コクヨグループにTLG社を迎える最大の目的は、ステーショナリー事業のグローバル展開を加速させるための、強固な筆記具事業基盤を獲得すること。同社が誇る高い商品開発力と優れた原価競争力を実現する生産及び調達能力に、コクヨの強みである商品企画力やマーケティングノウハウを融合させることで、両社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に貢献していく。

高品質なオフィス向けブース製品、インクルーシブデザインの新しいオフィス家具「hangout（ハングアウト）」、背樹脂タイプ、背座チルト機能で多様な姿勢を自然にサポートするネスティングチェアー「Freory（フレオリー）」の背メッシュタイプ、スマートなデザインと実用性の高い機能を搭載したスタンダードタスクチェアー「EN2（イーエヌツー）」、大容量の収納力と使い勝手に優れたナーシングカート「Free Grande（フリーグランデ）」、子どもが主役の学びを促すテーブル＆スツール「Puzzme（パズミー）」。

なお、同日、フィンランドの防音ブースメーカー「Framery（フラメリー）」と販売代理店契約を締結し、フラメリーが展開する高品質なオフィス向けブース製品の国内販売を発表。また、同社が取り組む新規事業「不動産再生事業」の第1号案件を公開。築27年の8階建てのオフィスビルをリノベーションしたシェアオフィス「MOV Kuramae」を来年3月に東京都台東区蔵前で開業する。同物件は、コクヨが不動産の取得から企画、リノベーション、運営までを自社で一貫して行い、不動産のバリューアップを実現する。

うカフェチェアー「Tos（トス）」、過ごし方を選択できる心地よさと上質感を両立したロビーチェアー「FORSE（フォルセ）」、家具ブランド「DAYS OFFICE（デイズオフィス）」の新製品として、エラストマー素材を使用した、やさしいデザインのタスクチェアー「hug knit（ハグニット）」、フラメリー（フィンランドの防音メーカー）が展開する

当日発表の主な新商品は次の通り。

新型オフィスチェアー「ingCloud（イングクラウド）」、働き方の変化に柔軟に対応する新しいマルチテーブル「Opt（オプト）」、機能を魅せるフォルムと豊富なバリエーションが揃うミーティングチェアー「R Chair（アールチェアー）」、食事や語らいの所作に寄り添